

◎千九百六十九年の油による汚染損害についての民事責任に関する国際条約を改正する千九百九十二年の議定書

(略称) 油汚染損害の民事責任条約を改正する一九九二年の議定書

平成	四年十一月二十七日	ロンドンで作成
平成	八年 五月 三十日	効力発生
平成	六年 六月二十二日	国会承認
平成	六年 八月二十三日	加入の閣議決定
平成	六年 八月二十四日	加入書寄託
平成	七年 九月 十九日	公布及び告示
(条約第十八号及び外務省告示第五三四号)		
平成	八年 五月 三十日	我が国について効力発生

目次

前文	一六二三
第一条 改正される条約	一六二三
第二条 条約第一条の改正	一六二三
第三条 条約第二条の改正	一六二四
第四条 条約第三条の改正	一六二五
第五条 条約第四条の改正	一六二六
第六条 条約第五条の改正	一六二六
第七条 条約第七条の改正	一六二八

第八条	条約第九条の改正	一六一八
第九条	条約第十二条の二及び三の追加	一六一九
第十条	証明書の様式	一六一九
第十一条	議定書と条約の関係及び改正された条約の名称	一六二〇
最終規定		一六二〇
第十二条	署名、批准、受諾、承認及び加入	一六二〇
第十三条	効力発生	一六二一
第十四条	改正	一六二一
第十五条	制限額の改正	一六二二
第十六条	廃棄	一六二三
第十七条	寄託者	一六二四
第十八条	言語	一六二四
末 文		一六二五
附属書	油による汚染損害についての民事責任に関する保険その他の金銭上の保証の証明書	一六二六

千九百六十九年の油による汚染損害についての民事責任に関する国際条約を改正する千九百九十二年の議定書

この議定書の締約国は、

千九百六十九年の油による汚染損害についての民事責任に関する国際条約及び同条約の千九百八十四年の議定書を考慮し、

適用範囲の拡大及び賠償の拡充について定める同議定書が効力を生じていないことに留意し、

油による汚染に関する責任並びに賠償及び補償の国際的な制度を存続させることが重要であることを確認し、

千九百八十四年の議定書の内容ができる限り速やかに効力を生ずることを確保することが必要であることを認識し、

千九百七十一年の油による汚染損害の補償のための国際基金の設立に関する国際条約について関連する改正が行われることに伴い、特別の規定が必要であることを認識して、

次のとおり協定した。

第一条

この議定書が改正する条約は、千九百六十九年の油による汚染損害についての民事責任に関する国際条約（以下「千九百六十九年責任条約」という。）である。千九百六十九年責任条約の千九百七十六年の議定書の締約国については、「千九百六十九年責任条約」というときは、同議定書によって改正された千九百六十九年責任条約をいうものとする。

第二条

千九百六十九年責任条約第一条を次のように改正する。

1 1を次のように改める。

1 「船舶」とは、ばら積みのおを貨物として輸送するために建造され又は改造された海上航行船舶及び海上用舟艇（種類のいかんを問わない。）をいう。ただし、油及び他の貨物を輸送することができない船舶については、ばら積みのおを貨物として現に輸送しているとき及びその輸送の後の航海中（その輸送による残留物が船舶内にないことが証明された場合を除く。）においてのみ、船舶とみなす。

油汚染損害の民事責任条約を改正する一九九二年の議定書

PROTOCOL OF 1992 TO AMEND THE INTERNATIONAL CONVENTION ON CIVIL LIABILITY FOR OIL POLLUTION DAMAGE, 1969

THE PARTIES TO THE PRESENT PROTOCOL,

HAVING CONSIDERED the International Convention on Civil Liability for Oil Pollution Damage, 1969, and the 1984 Protocol thereto,

HAVING NOTED that the 1984 Protocol to that Convention, which provides for improved scope and enhanced compensation, has not entered into force,

AFIRMING the importance of maintaining the viability of the international oil pollution liability and compensation system,

MAKING OF the need to ensure the entry into force of the content of the 1984 Protocol as soon as possible,

RECOGNIZING that special provisions are necessary in connection with the introduction of corresponding amendments to the International Convention on the Establishment of an International Fund for Compensation for Oil Pollution Damage, 1971,

HAVE AGREED as follows:

Article 1

The Convention which the provisions of this protocol amend is the International Convention on Civil Liability for Oil Pollution Damage, 1969, hereinafter referred to as the "1969 Liability Convention". For States Parties to the Protocol of 1976 to the 1969 Liability Convention, such reference shall be deemed to include the 1969 Liability Convention as amended by that Protocol.

Article 2

Article 1 of the 1969 Liability Convention is amended as follows:

1. Paragraph 1 is replaced by the following text:

1. "Ship" means any sea-going vessel and seaborne craft of any type whatsoever constructed or adapted for the carriage of oil in bulk as cargo, provided that a ship capable of carrying oil and other cargoes shall be regarded as a ship only when it is actually carrying oil in bulk as cargo and during any voyage following such carriage unless it is proved that it has no residues of such carriage of oil in bulk aboard.

油汚染損害の民事責任条約を改正する一九九二年の議定書

一六一四

2 5を次のように改める。

5 「油」とは、原油、重油、重ディーゼル油、潤滑油等の持続性の炭化水素の鉱物油をいい、船舶により貨物として輸送されているかその船舶の燃料タンクにあるかを問わない。

3 6を次のように改める。

6 「汚染損害」とは、次のものをいう。

(a) 船舶からの油の流出又は排出（その場所のいかんを問わない。）による汚染によつてその船舶の外部において生ずる損失又は損害。ただし、環境の悪化について行われる賠償（環境の悪化による利益の喪失に関するものを除く。）は、実際にとられた又はとられるべき回復のための合理的な措置の費用に係るものに限る。

(b) 防止措置の費用及び防止措置によつて生ずる損失又は損害

4 8を次のように改める。

8 「事故」とは、いずれかの出来事又は同一の原因による一連の出来事であつて、汚染損害をもたらすもの又は汚染損害をもたらす重大なかつ急迫した脅威を生じさせるものをいう。

5 9を次のように改める。

9 「機関」とは、国際海事機関をいう。

6 9の次に10として次のように加える。

10 「千九百六十九年責任条約」とは、千九百六十九年の油による汚染損害についての民事責任に関する国際条約をいう。同条約の千九百七十六年の議定書の締約国については、「千九百六十九年責任条約」というときは、同議定書によつて改正された千九百六十九年責任条約をいうものとする。

第三条

千九百六十九年責任条約第二条を次のように改める。

第二条

この条約は、次のものについてのみ適用する。

- (a) 次の区域において生ずる汚染損害
- (i) 締約国の領域（領海を含む。）
- (ii) 国際法に従つて設定された締約国の排他的経済水域、排他的経済水域を認定していない締約国の

2. Paragraph 5 is replaced by the following text:

5. "Oil" means any persistent hydrocarbon mineral oil such as crude oil, fuel oil, heavy diesel oil and lubricating oil, whether carried on board a ship as cargo or in the bunkers of such a ship.

3. Paragraph 6 is replaced by the following text:

6. "Pollution damage" means:

(a) loss or damage caused outside the ship by contamination resulting from the escape or discharge of oil from the ship, wherever such escape or discharge may occur, provided that compensation for impairment of the environment other than loss of profit from such impairment shall be limited to costs of reasonable measures of reinstatement actually undertaken or to be undertaken;

(b) the costs of preventive measures and further loss or damage caused by preventive measures.

4. Paragraph 8 is replaced by the following text:

8. "Incident" means any occurrence, or series of occurrences having the same origin, which causes pollution damage or creates a grave and imminent threat of causing such damage.

5. Paragraph 9 is replaced by the following text:

9. "Organization" means the International Maritime Organization.

6. After paragraph 9 a new paragraph is inserted reading as follows:

10. "1969 Liability Convention" means the International Convention on Civil Liability for Oil Pollution Damage, 1969. For States Parties to the Protocol of 1976 to that Convention, the term shall be deemed to include the 1969 Liability Convention as amended by that Protocol.

Article 3

Article II of the 1969 Liability Convention is replaced by the following text:

This Convention shall apply exclusively:

- (a) to pollution damage caused:
 - (i) in the territory, including the territorial sea, of a Contracting State, and
 - (ii) in the exclusive economic zone of a Contracting State, if established in accordance with international law, or, if

条約第三 条の改正

ついでに、その締約国の領海に接続しかつその締約国が国際法に従つて決定する水域であつて、領海の幅を測定するための基線から二百海里を超えないもの

(b) (a)の汚染損害を防止し又は最小限にするための防止措置（とられた場所のいかんを問わない。）

第四条

千九百六十九年責任条約第三条を次のように改正する。

1 を次のように改める。

1 2及び3に規定する場合を除くはか、事故の発生の時又は事故が一連の出来事から成るときは最初の出来事の発生の際における船舶の所有者は、その事故の結果その船舶から生ずる汚染損害について責任を負ふ。

2 4を次のように改める。

4 汚染損害の賠償の請求は、この条約に基づく場合を除くはか、所有者に対して行うことができない。
5の規定に従つてこれを条件として、汚染損害の賠償の請求は、この条約に基づくものであるかどうかを問はず、次に掲げる者に対して行うことができない。

- (a) 所有者の被用者若しくは代理人又は乗組員
- (b) 水先人その他船舶のために役務を提供する者で乗組員以外のもの
- (c) 船舶の備給者（裸備給者を含む、名称のいかんを問わない。）、管理人又は運航者
- (d) 所有者の同意を得て又は権限のある公の当局の指示に基づき救助活動を行う者
- (e) 防止措置をとる者
- (f) (c)から(e)までに掲げる者の被用者又は代理人

ただし、(a)から(f)までに掲げる者が汚染損害をもたらす意図をもつて又は無謀にかつ汚染損害の生ずるおそれがあることを認識して行つた行為（不作為を含む。）により汚染損害が生じた場合は、この限りでない。

油汚染損害の民事責任条約を改正する一九九二年の議定書

a Contracting State has not established such a zone, in an area beyond and adjacent to the territorial sea of that State determined by that State in accordance with international law and extending not more than 200 nautical miles from the baselines from which the breadth of its territorial sea is measured;

(b) to preventive measures, wherever taken, to prevent or minimize such damage.

Article 4

Article III of the 1969 Liability Convention is amended as follows:

1. Paragraph 1 is replaced by the following text:

1. Except as provided in paragraphs 2 and 3 of this Article, the owner of a ship at the time of an incident, or, where the incident consists of a series of occurrences, at the time of the first such occurrence, shall be liable for any pollution damage caused by the ship as a result of the incident.

2. Paragraph 4 is replaced by the following text:

4. No claim for compensation for pollution damage may be made against the owner otherwise than in accordance with this Convention. Subject to paragraph 5 of this Article, no claim for compensation for pollution damage under this Convention or otherwise may be made against:

- (a) the servants or agents of the owner or the members of the crew;
- (b) the pilot or any other person who, without being a member of the crew, performs services for the ship;
- (c) any charterer (howsoever described, including a bareboat charterer), manager or operator of the ship;
- (d) any person performing salvage operations with the consent of the owner or on the instructions of a competent public authority;
- (e) any person taking preventive measures;
- (f) all servants or agents of persons mentioned in subparagraphs (c), (d) and (e);

unless the damage resulted from their personal act or omission, committed with the intent to cause such damage, or recklessly and with knowledge that such damage would probably result.

油汚染損害の民事責任条約を改正する一九九二年の議定書

一六一六

第五条

千九百六十九年責任条約第四条を次のように改める。

第四条

二以上の船舶が関係する事故が生じ、それによつて汚染損害が生じた場合には、それらのすべての船舶の所有者は、前条の規定に基づいて責任を免れる場合を除くほか、合理的に分割することができない汚染損害の全体について連帯して責任を負う。

第六条

千九百六十九年責任条約第五条を次のように改正する。

1 1を次のように改める。

1 船舶の所有者は、この条約に基づく自己の責任を、一の事故について、次のとおり計算した金額に制限することができる。

(a) トン数五千単位を超えない船舶については、三百万計算単位

(b) トン数五千単位を超える船舶については、それを超える部分についてトン数一単位当たり四百二十計算単位で計算した計算単位と(a)の計算単位とを合算した計算単位

ただし、この金額は、いかなる場合にも、五千九百七十万計算単位を超えないものとする。

2 2を次のように改める。

2 所有者は、汚染損害をもたらす意図をもつて又は無謀にかつ汚染損害の生ずるおそれがあることを認識して行つた自己の行為（不作為を含む。）により汚染損害の生じたことが証明された場合には、この条約に基づいて自己の責任を制限することができない。

3 3を次のように改める。

3 所有者は、1の制限の利益を享受するためには、第九条の規定に基づいて訴えが提起される締約国のうちいずれかの締約国の裁判所その他の権限のある当局に、又は訴えが提起されない場合には同条の規定に基づいて訴えを提起することができ、締約国のうちいずれかの締約国の裁判所その他の権限のある当局に、自己の責任の限度額に相当する額の基金を形成しなければならぬ。基金は、その金額を供託することにより、又は基金が形成される締約国の法令によつて認められかつ裁判所その他の権限のある当局が十分と認める銀行保証その他の保証を提供することによつて形成することができる。

Article 5

text: Article IV of the 1969 Liability Convention is replaced by the following

When an incident involving two or more ships occurs and pollution damage results therefrom, the owners of all the ships concerned, unless exonerated under Article III, shall be jointly and severally liable for all such damage which is not reasonably separable.

Article 6

Article V of the 1969 Liability Convention is amended as follows:

1. Paragraph 1 is replaced by the following text:

1. The owner of a ship shall be entitled to limit his liability under this Convention in respect of any one incident to an aggregate amount calculated as follows:

(a) 3 million units of account for a ship not exceeding 5,000 units of tonnage;

(b) for a ship with a tonnage in excess thereof, for each additional unit of tonnage, 420 units of account in addition to the amount mentioned in subparagraph (a);

provided, however, that this aggregate amount shall not in any event exceed 59.7 million units of account.

2. Paragraph 2 is replaced by the following text:

2. The owner shall not be entitled to limit his liability under this Convention if it is proved that the pollution damage resulted from his personal act or omission, committed with the intent to cause such damage, or recklessly and with knowledge that such damage would probably result.

3. Paragraph 3 is replaced by the following text:

3. For the purpose of availing himself of the benefit of limitation provided for in paragraph 1 of this Article the owner shall constitute a fund for the total sum representing the limit of his liability with the Court or other competent authority of any one of the Contracting States in which action is brought under Article IX or, if no action is brought, with any Court or other competent authority in any one of the Contracting States in which an action can be brought under Article IX. The fund can be constituted either by depositing the sum or by producing a bank guarantee or other guarantee, acceptable under the legislation of the Contracting State where the fund is constituted, and considered to be adequate by the Court or other competent authority.

4 9を次のように改める。

9 (a) 1にいう計算単位は、国際通貨基金の定める特別引出権とする。1に規定する金額は、当該国の通貨が3に規定する基金の形成の日特別引出権に対して有する価値に従つて、当該通貨で換算する。国際通貨基金の加盟国である締約国の通貨の特別引出権表示による価値は、国際通貨基金がその操作及び取引のために適用する評価方法であつて換算の日において効力を有しているものにより計算する。国際通貨基金の加盟国でない締約国の通貨の特別引出権表示による価値は、その締約国の定める方法により計算する。

(b) 国際通貨基金の加盟国でなく、かつ、自国の法令により(a)の規定を適用することのできない締約国は、この条約の批准、受諾若しくは承認若しくはこれへの加入の時に又はその後いつでも、(a)にいう計算単位を十五金フランに等しくすることを宣言することができる。この(b)にいう金フランとは、純分千分の九百の金の六十五・五ミリグラムから成る単位をいう。金フランの通貨への換算は、当該国の法令の定めるところにより行う。

(c) (a)第四段に規定する計算及び(b)に規定する換算は、(a)第一段から第三段までの規定を適用したならば得られたであらう1に規定する金額と可能な限り同一の実質価値が締約国の通貨で表示されるように行う。締約国は、(a)に規定する計算の方法又は(b)に規定する換算の結果を、この条約の批准書、受諾書、承認書又は加入書の寄託の時に寄託者に通知する。当該計算の方法又は当該換算の結果が変更された場合も、同様とする。

5 10を次のように改める。

10 この条の規定の適用上、船舶のトン数は、千九百六十九年の船舶のトン数の測定に関する国際条約附屬書Iに定めるトン数の測定に関する規則に従つて計算される総トン数とする。

6 11後段を次のように改める。

この基金は、所有者が2の規定に基づき自己の責任を制限することのできない場合にも形成することのできるものとするが、この場合においては、所有者に対する債権者の権利は、その基金の形成によつて害されることはない。

油污染損害の民事責任条約を改正する一九九二年の議定書

4. Paragraph 9 is replaced by the following text:

9(a). The "unit of account" referred to in paragraph 1 of this Article is the Special Drawing Right as defined by the International Monetary Fund. The amounts mentioned in paragraph 1 shall be converted into national currency on the basis of the value of that currency by reference to the Special Drawing Right on the date of the constitution of the fund referred to in paragraph 3. The value of the national currency, in terms of the Special Drawing Right, of a Contracting State which is a member of the International Monetary Fund shall be calculated in accordance with the method of valuation applied by the International Monetary Fund in effect on the date in question for its operations and transactions. The value of the national currency, in terms of the Special Drawing Right, of a Contracting State which is not a member of the International Monetary Fund shall be calculated in a manner determined by that State.

9(b). Nevertheless, a Contracting State which is not a member of the International Monetary Fund and whose law does not permit the application of the provisions of paragraph 9(a) may, at the time of ratification, acceptance, approval or accession to this Convention or at any time thereafter, declare that the unit of account referred to in paragraph 9(a) shall be equal to 15 gold francs. The gold franc referred to in this paragraph corresponds to sixty-five and a half milligrammes of gold of millesimal fineness nine hundred. The conversion of the gold franc into the national currency shall be made according to the law of the State concerned.

9(c). The calculation mentioned in the last sentence of paragraph 9(a) and the conversion mentioned in paragraph 9(b) shall be made in such manner as to express in the national currency of the Contracting State as far as possible the same real value for the amounts in paragraph 1 as would result from the application of the first three sentences of paragraph 9(a). Contracting States shall communicate to the depositary the manner of calculation pursuant to paragraph 9(a), or the result of the conversion in paragraph 9(b) as the case may be, when depositing an instrument of ratification, acceptance, approval or accession to this Convention and whenever there is a change in either.

5. Paragraph 10 is replaced by the following text:

10. For the purpose of this Article the ship's tonnage shall be the gross tonnage calculated in accordance with the tonnage measurement regulations contained in Annex I of the International Convention on Tonnage Measurement of Ships, 1969.

6. The second sentence of paragraph 11 is replaced by the following text:

Such a fund may be constituted even if, under the provisions of paragraph 2, the owner is not entitled to limit his liability, but its constitution shall in that case not prejudice the rights of any claimant against the owner.

油汚染損害の民事責任条約を改正する一九九二年の議定書

第七条

千九百六十九年責任条約第七条を次のように改正する。

1 第二段及び第二段を次のように改める。

保険その他の金銭上の保証がこの条約に従って効力を有していることを証明する証明書が、1に規定する要件が満たされていることが締約国の権限のある当局により確認された後に、各船舶に対して発行される。締約国に登録されている船舶については、その証明書は、船舶の登録国の権限のある当局により発行され又は公認される。締約国に登録されていない船舶については、その証明書は、いずれかの締約国の権限のある当局により発行され又は公認されることが出来る。

2 4を次のように改める。

4 証明書は、船舶内に備え置くものとし、その写しは、当該船舶の登録簿を保管する当局又は当該船舶がいずれの締約国にも登録されていない場合にはその証明書を発行し若しくは公認した国の当局に寄託する。

3 7前段を次のように改める。

2の規定に従い締約国の権限に基づいて発行され又は公認された証明書(いずれの締約国にも登録されていない船舶について発行され又は公認されたものを含む。)は、他の締約国により、この条約の適用上承認され、それらの締約国が発行し又は公認した証明書と同一の効力を有するものと認められる。

4 7後段中「船舶の登録国」を「その証明書を発行し又は公認した国」に改める。

5 8第二段を次のように改める。

この場合には、被告は、所有者が第五条2の規定に基づいて自己の責任を制限することができないときにおいても、同条1に規定する責任の制限を適用することができ。

第八条

千九百六十九年責任条約第九条を次のように改正する。

1を次のように改める。

1 事故が一若しくは二以上の締約国の領域(領海を含む。)若しくは第一条に規定する水域において汚染損害をもたらし、又は当該領域(領海を含む。)若しくは当該水域における汚染損害を防止し若しくは最小限にするため防止措置がとられた場合には、賠償の請求の訴えは、当該締約国の裁判所のみ提

Article 7

Article VII of the 1969 Liability Convention is amended as follows:

1. The first two sentences of paragraph 2 are replaced by the following text:

A certificate attesting that insurance or other financial security is in force in accordance with the provisions of this Convention shall be issued to each ship after the appropriate authority of a Contracting State has determined that the requirements of paragraph 1 have been complied with. With respect to a ship registered in a Contracting State such certificate shall be issued or certified by the appropriate authority of the State of the ship's registry; with respect to a ship not registered in a Contracting State it may be issued or certified by the appropriate authority of any Contracting State.

2. Paragraph 4 is replaced by the following text:

4. The certificate shall be carried on board the ship and a copy shall be deposited with the authorities who keep the record of the ship's registry or, if the ship is not registered in a Contracting State, with the authorities of the State issuing or certifying the certificate.

3. The first sentence of paragraph 7 is replaced by the following text:

Certificates issued or certified under the authority of a Contracting State in accordance with paragraph 2 shall be accepted by other Contracting States for the purposes of this Convention and shall be regarded by other Contracting States as having the same force as certificates issued or certified by them even if issued or certified in respect of a ship not registered in a Contracting State.

4. In the second sentence of paragraph 7 the words "with the State of a ship's registry" are replaced by the words "with the issuing or certifying State".

5. The second sentence of paragraph 8 is replaced by the following text:

In such case the defendant may, even if the owner is not entitled to limit his liability according to Article V, paragraph 2, avail himself of the limits of liability prescribed in Article V, paragraph 1.

Article 8

Article IX of the 1969 Liability Convention is amended as follows:

Paragraph 1 is replaced by the following text:

1. Where an incident has caused pollution damage in the territory, including the territorial sea or an area referred to in Article II, of one or more Contracting States or preventive measures have been taken to prevent or minimize pollution damage in such territory including the territorial sea or area, actions for compensation may only be brought in

条約第十
二条の二
及び三の
追加

起することができる。その訴えについては、被告に対し相当の通告を行う。

第九条

千九百六十九年責任条約第十二条の次に次の二条を加える。

第十二条の二 経過規定

事故の発生の際にこの条約及び千九百六十九年責任条約の双方の締約国である国については、次の(a)から(d)までの経過規定を適用する。

(a) この条約に基づく責任は、事故がこの条約の対象とされている汚染損害をもたらした場合において、その責任が千九百六十九年責任条約の下でも生ずるときは、その範囲で履行されたものとみなす。

(b) 事故がこの条約の対象とされている汚染損害をもたらし、かつ、当該国がこの条約及び千九百七十一年の油による汚染損害の補償のための国際基金の設立に関する国際条約の双方の締約国である場合には、(a)の規定が適用された後履行されずに残る責任は、汚染損害が千九百七十一年の油による汚染損害の補償のための国際基金の設立に関する国際条約が適用された後補償されずに残る範囲でのみ、この条約に基づいて生ずる。

(c) 第三条4の規定の適用に当たり、「この条約」とは、適宜、この条約又は千九百六十九年責任条約をいうものと解する。

(d) 第五条3の規定の適用に当たり、形成される基金の額は、(a)の規定に基づいて履行されたものとみなされた責任に相当する額を減じたものとする。

第十二条の三 最終規定

千九百六十九年責任条約を改正する千九百九十二年の議定書第十二条から第十八条までの規定をこの条約の最終規定とする。この条約において「締約国」といふときは、同議定書の締約国をいうものとする。

第十条

千九百六十九年責任条約附屬書に示す証明書の様式をこの議定書の附屬書に示す様式に改める。

油汚染損害の民事責任条約を改正する一九九二年の議定書

証明書の
様式

the Courts of any such Contracting State or States. Reasonable notice of any such action shall be given to the defendant.

Article 9

After Article XII of the 1969 Liability Convention two new Articles are inserted as follows:

Article XII bis

Transitional provisions

The following transitional provisions shall apply in the case of a State which at the time of an incident is a Party both to this Convention and to the 1969 Liability Convention:

(a) where an incident has caused pollution damage within the scope of this Convention, liability under this Convention shall be deemed to be discharged if, and to the extent that, it also arises under the 1969 Liability Convention;

(b) where an incident has caused pollution damage within the scope of this Convention, and the State is a Party both to this Convention and to the International Convention on the Establishment of an International Fund for Compensation for Oil Pollution Damage, 1971, liability remaining to be discharged after the application of subparagraph (a) of this Article shall arise under this Convention only to the extent that pollution damage remains uncompensated after application of the said 1971 Convention;

(c) in the application of Article III, paragraph 4, of this Convention the expression "this Convention" shall be interpreted as referring to this Convention or the 1969 Liability Convention, as appropriate;

(d) in the application of Article V, paragraph 3, of this Convention the total sum of the fund to be constituted shall be reduced by the amount by which liability has been deemed to be discharged in accordance with subparagraph (a) of this Article.

Article XII ter

Final clauses

The final clauses of this Convention shall be Articles 12 to 18 of the Protocol of 1992 to amend the 1969 Liability Convention. References in this Convention to Contracting States shall be taken to mean references to the Contracting States of that Protocol.

Article 10

The model of a certificate annexed to the 1969 Liability Convention is replaced by the model annexed to this Protocol.

油污染損害の民事責任条約を改正する一九九二年の議定書

第十一条

議定書と
条約の関
係及び改
正された
条約の名

- 1 千九百六十九年責任条約及びこの議定書は、この議定書の締約国の間において、単一の文書として一括して読まれ、かつ、解釈されるものとする。
- 2 この議定書によって改正された千九百六十九年責任条約第一条から第十二条の三までの規定（証明書の様式を含む。）は、千九百九十二年の油による汚染損害に関する民事責任に関する国際条約（千九百九十二年責任条約）と称するものとする。

最終規定

第十二条 署名、批准、受諾、承認及び加入

署名、批
准、受諾、
承認及び
加入

- 1 この議定書は、千九百九十三年一月十五日から千九百九十四年一月十四日まで、ロンドンにおいてすべての国による署名のために開放しておく。
- 2 4の規定に従うことを条件として、いずれの国も、次のいずれかの方法により、この議定書の締約国となることができる。
 - (a) 批准、受諾又は承認を条件として署名した後、批准し、受諾し又は承認すること。
 - (b) 加入すること。
- 3 批准、受諾、承認又は加入は、そのための正式の文書を機関の事務局長に寄託することによって行う。
- 4 千九百七十一年の油による汚染損害の補償のための国際基金の設立に関する国際条約（以下「千九百七十年基金条約」という。）の締約国は、同条約を改正する千九百九十二年の議定書を同時に批准し、受諾し若しくは承認し又はこれに加入する場合にのみ、この議定書を批准し、受諾し若しくは承認し又はこれに加入することができる。ただし、この議定書が当該締約国について効力を生ずる日に千九百七十一年基金条約の廃棄が効力を生ずるように当該締約国が同条約を廃棄する場合は、この限りでない。
- 5 この議定書の締約国であるが千九百六十九年責任条約の締約国でない国は、この議定書の他の締約国との関係においてはこの議定書によって改正された同条約によって拘束されるが、同条約の締約国との関係においては同条約によって拘束されない。
- 6 この議定書によって改正された千九百六十九年責任条約についてその後改正が行われた場合は、当該

一六二〇

Article 11

1. The 1969 Liability Convention and this Protocol shall, as between the Parties to this Protocol, be read and interpreted together as one single instrument.
2. Articles 1 to XII *ter*, including the model certificate, of the 1969 Liability Convention as amended by this Protocol shall be known as the International Convention on Civil Liability for Oil Pollution Damage, 1992 (1992 Liability Convention).

FINAL CLAUSES

Article 12

Signature, ratification, acceptance, approval and accession

1. This Protocol shall be open for signature at London from 15 January 1993 to 14 January 1994 by all States.
2. Subject to paragraph 4, any State may become a Party to this Protocol by:
 - (a) signature subject to ratification, acceptance or approval followed by ratification, acceptance or approval; or
 - (b) accession.
3. Ratification, acceptance, approval or accession shall be effected by the deposit of a formal instrument to that effect with the Secretary-General of the Organization.
4. Any Contracting State to the International Convention on the Establishment of an International Fund for Compensation for Oil Pollution Damage, 1971, hereinafter referred to as the 1971 Fund Convention, may ratify, accept, approve or accede to this Protocol only if it ratifies, accepts, approves or accedes to the Protocol of 1992 to amend that Convention at the same time, unless it denounces the 1971 Fund Convention to take effect on the date when this Protocol enters into force for that State.
5. A State which is a Party to this Protocol but not a Party to the 1969 Liability Convention shall be bound by the provisions of the 1969 Liability Convention as amended by this Protocol in relation to other States Parties hereto, but shall not be bound by the provisions of the 1969 Liability Convention in relation to States Parties *chereto*.
6. Any instrument of ratification, acceptance, approval or accession deposited after the entry into force of an amendment to the 1969 Liability

その後の改正が効力を生じた後に寄託される批准書、受諾書、承認書又は加入書は、この議定書によって改正され、かつ、当該その後の改正が行われた同条約に係るものとみなす。

第十三条 効力発生

1 この議定書は、それぞれのタンカー保有量が総トン数百万単位以上である四の国を含む十の国が批准書、受諾書、承認書又は加入書を機関の事務局長に寄託した日の後十二箇月で効力を生ずる。

2 もっとも、千九百七十一年基金条約の締約国は、この議定書の批准書、受諾書、承認書又は加入書の寄託の際に、これらの文書が、この条の規定の適用上千九百七十一年基金条約を改正する千九百九十二年の議定書第三十一条に規定する六箇月の期間の満了の時まで効力を有しないものとみなすことを宣言することができる。千九百七十一年基金条約の締約国ではないが同条約を改正する千九百九十二年の議定書の批准書、受諾書、承認書又は加入書を寄託する国も、その寄託の際にこの2の規定に基づいて宣言を行うことができる。

3 2の規定に基づいて宣言を行った国は、機関の事務局長に於てた通告により、いつでもその宣言を撤回することができる。撤回は、通告が受領された日に効力を生ずるものとし、また、撤回を行った国は、その撤回が効力を生じた日にこの議定書の批准書、受諾書、承認書又は加入書を寄託したものとみなされる。

4 この議定書は、1に規定する効力発生の要件が満たされた後にこれを批准し、受諾し若しくは承認し又はこれに加入する国については、その国が該当する文書を寄託した日の後十二箇月で効力を生ずる。

第十四条 改正

1 機関は、千九百九十二年責任条約の改正のための会議を招集することができる。

2 機関は、締約国の三分の一以上からの要請がある場合には、千九百九十二年責任条約の改正のための締約国会議を招集する。

油污染損害の民事責任条約を改正する一九九二年の議定書

Convention as amended by this Protocol shall be deemed to apply to the Convention so amended, as modified by such amendment.

Article 13

Entry into force

1. This Protocol shall enter into force twelve months following the date on which ten States including four States each with not less than one million units of gross tanker tonnage have deposited instruments of ratification, acceptance, approval or accession with the Secretary-General of the Organization.

2. However, any Contracting State to the 1971 Fund Convention may, at the time of the deposit of its instrument of ratification, acceptance, approval or accession in respect of this Protocol, declare that such instrument shall be deemed not to be effective for the purposes of this Article until the end of the six-month period in Article 31 of the Protocol of 1992 to amend the 1971 Fund Convention. A State which is not a Contracting State to the 1971 Fund Convention but which deposits an instrument of ratification, acceptance, approval or accession in respect of the Protocol of 1992 to amend the 1971 Fund Convention may also make a declaration in accordance with this paragraph at the same time.

3. Any State which has made a declaration in accordance with the preceding paragraph may withdraw it at any time by means of a notification addressed to the Secretary-General of the Organization. Any such withdrawal shall take effect on the date the notification is received, provided that such State shall be deemed to have deposited its instrument of ratification, acceptance, approval or accession in respect of this Protocol on that date.

4. For any State which ratifies, accepts, approves or accedes to it after the conditions in paragraph 1 for entry into force have been met, this Protocol shall enter into force twelve months following the date of deposit by such State of the appropriate instrument.

Article 14

Revision and amendment

1. A Conference for the purpose of revising or amending the 1992 Liability Convention may be convened by the Organization.

2. The Organization shall convene a Conference of Contracting States for the purpose of revising or amending the 1992 Liability Convention at the request of not less than one third of the Contracting States.

油污染損害の民事責任条約を改正する一九九二年の議定書

第十五条 制限額の改正

制限額の改正

- 1 事務局長は、締約国の少なくとも四分の一の要請がある場合には、この議定書によって改正された千九百六十九年責任条約第五条1に規定する責任の限度額の改正案を機関のすべての加盟国及びすべての締約国に送付する。
- 2 1の規定により提案されかつ送付された改正案は、送付された日の後六箇月目の日以後に行われる審議のため機関の法律委員会に付託する。
- 3 この議定書によって改正された千九百六十九年責任条約のすべての締約国は、機関の加盟国であるか否かを問わず、改正案の審議及び採択のため法律委員会の審議に参加する権利を有する。
- 4 改正案は、3の規定により拡大された法律委員会に出席しかつ投票する締約国の三分の二以上の多数による議決で採択する。ただし、投票の際に締約国の少なくとも二分の一が出席していることを条件とする。
- 5 法律委員会は、限度額の改正案について決定を行う場合には、事故の経験、特にそれらの事故によって生じた損害の額、貨幣価値の変動及びその改正案が保険の費用に及ぼす影響を考慮する。法律委員会は、また、この議定書によって改正された千九百六十九年責任条約第五条1に規定する限度額と千九百九十二年の油による汚染損害の補償のための国際基金の設立に関する国際条約第四条4に規定する限度額との関係を考慮する。
- 6 (a) この条の規定に基づいて行われる責任の限度額の改正は、千九百九十八年一月十五日前に審議することとはできず、また、この条の規定に基づいて先に行われた改正が効力を生じた日から五年を経過する時まで審議することはできない。この条の規定に基づく改正は、この議定書が効力を生ずる前に審議することとはできない。
(b) 限度額については、この議定書によって改正された千九百六十九年責任条約に定める限度額につき千九百九十九年一月十五日から年六パーセントの複利による計算をして得た増額分と当該限度額との合計額を超えるような引上げを行うことはできない。
(c) 限度額については、この議定書によって改正された千九百六十九年責任条約に定める限度額を三を乗じた額を超えるような引上げを行うことはできない。
- 7 機関は、4の規定に従って採択された改正をすべての締約国に通告する。改正は、通告の日の後十八箇

一六二二

Article 15

Amendments of limitation amounts

1. Upon the request of at least one quarter of the Contracting States any proposal to amend the limits of liability laid down in Article V, paragraph 1, of the 1969 Liability Convention as amended by this Protocol shall be circulated by the Secretary-General to all Members of the Organization and to all Contracting States.
2. Any amendment proposed and circulated as above shall be submitted to the Legal Committee of the Organization for consideration at a date at least six months after the date of its circulation.
3. All Contracting States to the 1969 Liability Convention as amended by this Protocol, whether or not Members of the Organization, shall be entitled to participate in the proceedings of the Legal Committee for the consideration and adoption of amendments.
4. Amendments shall be adopted by a two-thirds majority of the Contracting States present and voting in the Legal Committee, expanded as provided for in paragraph 3, on condition that at least one half of the Contracting States shall be present at the time of voting.
5. When acting on a proposal to amend the limits, the Legal Committee shall take into account the experience of incidents and in particular the amount of damage resulting therefrom, changes in the monetary values and the effect of the proposed amendment on the cost of insurance. It shall also take into account the relationship between the limits in Article V, paragraph 1, of the 1969 Liability Convention as amended by this Protocol and those in Article 4, paragraph 4, of the International Convention on the Establishment of an International Fund for Compensation for Oil Pollution Damage, 1992.
- 6 (a). No amendment of the limits of liability under this Article may be considered before 15 January 1998 nor less than five years from the date of entry into force of a previous amendment under this Article. No amendment under this Article shall be considered before this Protocol has entered into force.
(b). No limit may be increased so as to exceed an amount which corresponds to the limit laid down in the 1969 Liability Convention as amended by this Protocol increased by 6 per cent per year calculated on a compound basis from 15 January 1993.
(c). No limit may be increased so as to exceed an amount which corresponds to the limit laid down in the 1969 Liability Convention as amended by this Protocol multiplied by 3.
7. Any amendment adopted in accordance with paragraph 4 shall be notified

廃棄

月の期間が満了した時に受諾されたものとみなされる。ただし、その期間内に、法律委員会における改正の採択の時に締約国であった国の四分の一以上が機関に対しその改正を受諾しない旨の通知を行った場合には、その改正は、受諾されず、効力を生じない。

8 7の規定により受諾されたものとみなされる改正は、その受諾の後十八箇月で効力を生ずる。

9 すべての締約国は、改正が効力を生ずる日の少なくとも六箇月前に次条1及び2の規定に基づいてこの議定書を廃棄しない限り、その改正によって拘束される。その廃棄は、その改正が効力を生ずる時に効力を生ずる。

10 法律委員会が改正を採択した後受諾のための十八箇月の期間が満了するまでの間にこの議定書の締約国となった国は、その改正が効力を生ずる場合には、その改正によって拘束される。その期間が満了した後締約国となる国は、7の規定により受諾された改正によって拘束される。これらの場合において、当該国は、改正が効力を生ずる時に、又はこの議定書が当該国について効力を生ずる時がそれよりも遅いときはその時に、その改正によって拘束される。

第十六条 廃棄

1 締約国は、この議定書が自国について効力を生じた日の後は、いつでもこれを廃棄することができる。

2 廃棄は、機関の事務局長に廃棄書を寄託することによって行つて。

3 廃棄は、機関の事務局長への廃棄書の寄託の後十二箇月で、又は廃棄書に明記するこれよりも長い期間の後に、効力を生ずる。

4 この議定書のいずれかの締約国が千九百六十九年責任条約第十六条の規定に基づいて行つて同条約の廃棄は、この議定書の締約国の間においては、いかなる場合にも、この議定書によって改正された千九百六十九年責任条約の廃棄と解してはならない。

5 千九百七十一年基金条約を改正する千九百九十二年の議定書の廃棄であつて、同条約の締約国としてとどまる国により行われるものは、この議定書の廃棄とみなされる。その廃棄は、同条約を改正する千九百九十二年の議定書の廃棄と同議定書第三十四条の規定に従つて効力を生ずる日に効力を生ずる。

油汚染損害の民事責任条約を改正する一九九二年の議定書

by the Organization to all Contracting States. The amendment shall be deemed to have been accepted at the end of a period of eighteen months after the date of notification, unless within that period not less than one quarter of the States that were Contracting States at the time of the adoption of the amendment by the Legal Committee have communicated to the Organization that they do not accept the amendment in which case the amendment is rejected and shall have no effect.

8. An amendment deemed to have been accepted in accordance with paragraph 7 shall enter into force eighteen months after its acceptance.

9. All Contracting States shall be bound by the amendment, unless they denounce this Protocol in accordance with Article 16, paragraphs 1 and 2, at least six months before the amendment enters into force. Such denunciation shall take effect when the amendment enters into force.

10. When an amendment has been adopted by the Legal Committee but the eighteen-month period for its acceptance has not yet expired, a State which becomes a Contracting State during that period shall be bound by the amendment if it enters into force. A State which becomes a Contracting State after that period shall be bound by an amendment which has been accepted in accordance with paragraph 7. In the cases referred to in this paragraph, a State becomes bound by an amendment when that amendment enters into force, or when this Protocol enters into force for that State, if later.

Article 16

Denunciation

1. This Protocol may be denounced by any Party at any time after the date on which it enters into force for that Party.

2. Denunciation shall be effected by the deposit of an instrument with the Secretary-General of the Organization.

3. A denunciation shall take effect twelve months, or such longer period as may be specified in the instrument of denunciation, after its deposit with the Secretary-General of the Organization.

4. As between the Parties to this Protocol, denunciation by any of them of the 1969 Liability Convention in accordance with Article XVI thereof shall not be construed in any way as a denunciation of the 1969 Liability Convention as amended by this Protocol.

5. Denunciation of the Protocol of 1992 to amend the 1971 Fund Convention by a State which remains a Party to the 1971 Fund Convention shall be deemed to be a denunciation of this Protocol. Such denunciation shall take effect on the date on which denunciation of the Protocol of 1992 to amend the 1971 Fund Convention takes effect according to Article 34 of that Protocol.

油汚染損害の民事責任条約を改正する一九九二年の議定書

第十七条 寄託者

寄託者

- 1 この議定書及び第十五条の規定により受諾された改正は、機関の事務局長に寄託する。
- 2 機関の事務局長は、次のことを行う。
 - (a) 署名国又は加入国に対して次の事項を通知すること。
 - (i) 新たに行われた署名又は文書の寄託及びその署名又は寄託の日
 - (ii) 第十三条の規定に基づく宣言及び通告並びに千九百九十二年責任条約第五条9の規定に基づく宣言及び通知
 - (aa) この議定書の効力発生の日
 - (iv) 第十五条1の規定により提案された責任の限度額の改正案
 - (v) 第十五条4の規定に従って採択された改正
 - (vi) 第十五条7の規定により受諾されたものとみなされる改正並びにその改正が同条8及び9の規定により効力を生ずる日
 - (vi) この議定書の廃棄書の寄託、その寄託の日及びその廃棄が効力を生ずる日
 - (vi) 第十六条5の規定により行われたものとみなされる廃棄
 - (ix) この議定書に定めるところにより必要とされる通知
 - (b) すべての署名国及びこの議定書に加入するすべての国に対し、この議定書の認証原本を送付する。
- 3 機関の事務局長は、この議定書が効力を生じたときは直ちに、国際連合憲章第一百二条の規定に従い、その条約文を登録及び公表のため国際連合事務局に送付する。

第十八条 言語

この議定書は、ひとしく正文であるアラビア語、中国語、英語、フランス語、ロシア語及びスペイン語で

言語

一六二四

Article 17

Depositary

1. This Protocol and any amendments accepted under Article 15 shall be deposited with the Secretary-General of the Organization.
2. The Secretary-General of the Organization shall:
 - (a) inform all States which have signed or acceded to this Protocol of:
 - (i) each new signature or deposit of an instrument together with the date thereof;
 - (ii) each declaration and notification under Article 13 and each declaration and communication under Article V, paragraph 9, of the 1992 Liability Convention;
 - (iii) the date of entry into force of this Protocol;
 - (iv) any proposal to amend limits of liability which has been made in accordance with Article 15, paragraph 1;
 - (v) any amendment which has been adopted in accordance with Article 15, paragraph 4;
 - (vi) any amendment deemed to have been accepted under Article 15, paragraph 7, together with the date on which that amendment shall enter into force in accordance with paragraphs 8 and 9 of that Article;
 - (vii) the deposit of any instrument of denunciation of this Protocol together with the date of the deposit and the date on which it takes effect;
 - (viii) any denunciation deemed to have been made under Article 16, paragraph 5;
 - (ix) any communication called for by any Article of this Protocol;
 - (b) transmit certified true copies of this Protocol to all Signatory States and to all States which accede to this Protocol.

Article 18

Languages

This Protocol is established in a single original in the Arabic, Chinese, English, French, Russian and Spanish languages, each text being equally authentic.

末
文

より原本一通を作成する。

千九百九十二年十一月二十七日にロンドンで作成した。

以上の証拠として、下名は、各自の政府から正当な委任を受けてこの議定書を署名した。

DONE AT LONDON, this twenty-seventh day of November one thousand nine hundred and ninety-two.

IN WITNESS WHEREOF the undersigned, being duly authorized by their respective Governments for that purpose, have signed this Protocol.

油汚染損害の民事責任条約を改正する一九九二年の議定書

一六二六

附 属 書

附 属 書

油による汚染損害についての民事責任に関する保険その他の金銭上の保証の証明書

1992年の油による汚染損害についての民事責任に関する国際条約第7条の規定に従って発行する。

船 名	船舶番号又は番号符号	船 籍 港	所有者の氏名又は名称及び住所

上記の船舶に関し、1992年の油による汚染損害についての民事責任に関する国際条約第7条の要件を満たす保険証券その他の金銭上の保証が効力を有していることを証明する。

保 証 の 種 類

保 証 の 期 間

保険者及び (又は) 保証提供者の氏名又は名称及び住所

氏名又は名称

住 所

この証明書は、 _____ まで効力を有する。

政府が

(国の正式名称)

において

(場所)

(日付)

に発行し又

は公認した。

発行し又は公認する公務員の署名及び官職

ANNEX

CERTIFICATE OF INSURANCE OR OTHER FINANCIAL
SECURITY IN RESPECT OF CIVIL LIABILITY FOR
OIL POLLUTION DAMAGE

Issued in accordance with the provisions of Article VII of the International
Convention on Civil Liability for Oil Pollution Damage, 1992.

Name of ship	Distinctive number or letters	Port of registry	Name and address of owner

This is to certify that there is in force in respect of the above-named
ship a policy of insurance or other financial security satisfying the
requirements of Article VII of the International Convention on Civil Liability
for Oil Pollution Damage, 1992.

Type of Security

Duration of Security

Name and Address of the Insurer(s) and/or Guarantor(s)

Name

Address

This certificate is valid until

Issued or certified by the Government of

(Full designation of the State)

At On (Date)

(Place)

.....
Signature and title of issuing or
certifying official

注

- 1 国の名称を記載するに当たっては、望ましい場合には、証明書の発行が行われる国の権限のある当局の名称をも記載することができる。
- 2 保証の総額につき二以上の供給源がある場合には、それぞれの金額を明示しなければならない。
- 3 保証が二以上の方式で提供される場合には、それらの方式を列挙しなければならない。
- 4 「保証の期間」の欄には、保証が効力を生ずる日を明記しなければならない。

Explanatory Notes:

1. If desired, the designation of the State may include a reference to the competent public authority of the country where the certificate is issued.
2. If the total amount of security has been furnished by more than one source, the amount of each of them should be indicated.
3. If security is furnished in several forms, these should be enumerated.
4. The entry "Duration of Security" must stipulate the date on which such security takes effect.

(参考)

この議定書は、油污汚染損害の民事責任条約の適用範囲を拡大し、及び同条約における船舶の所有者の責任の限度額を引き上げること等を内容とするものである。